

ニュース

東日本大震災

福島第一原発事故から9年

唯一避難指示続く双葉町・光善寺

2年後町の一部解除予定も「果たして帰還するか…」

東日本大震災、福島第一原発の事故から9年。原発から約3.5キロで、原発事故で生じた放射性廃棄物や汚染土を保管する中間貯蔵施設がある福島県双葉町の光善寺（藤井賢誠住職）は、本願寺派寺院で唯一、現在も避難指示が解除されず避難生活を余儀なくされている。避難先を訪ねて現在の状況と自坊への思いを聞いた。



日、JR常磐線が開通する双葉駅周辺や工場予定地など、一部地域で避難指示の先行解除が行われた。同寺のある住宅地も、22年春の町の一部の避難解除を目指して「特定復興再生拠点区域」となり、自由に立ち入ることができるようになった。

藤井住職は大震災かをつとめてきた。ら2年3カ月の2013年6月、福島県いわき市に中古の1戸建て住宅を求め(写真下)、葬儀会館か飲食店の広

が欲しいので『分院』という形で新たにいわき市内に建物を建設する予定」という。

しかし同寺境内は、地震で倒壊した山門、避難中に倒壊した庫裏、補修と耐震工事が必要な本堂が、手つかずの状態である。周辺は、民家が取り壊されて更地も目立つ。

「傷んでしまった本堂を残すか、全て公費で解体し、戻ってくる住民数に合わせ規模を縮小した建物を新たに建てるか」「2年後、果たして帰還する人がいるのだろうか。前例から考えると、避難解除の2年後が、被災した家屋や事務所を市町村と国の補助で解体する期限となる。自宅が無くなってしまえば郷愁も次第に消えてしま



門徒の避難先は、いわき市のほか、県内では福島市、南相馬市、郡山市、白河市など。他県にも避難しており、散り散りになった。「葬儀や法事をつとめるために高速道路を使い片道200キロを走ってしまっ。宗派が支援活動の一環として福島市に設けてくださった福島県復興支援宗務事務所は、集まる場所としてとても助かっている」と語る。

「傷んでしまった本堂を残すか、全て公費で解体し、戻ってくる住民数に合わせ規模を縮小した建物を新たに建てるか」「2年後、果たして帰還する人がいるのだろうか。前例から考えると、避難解除の2年後が、被災した家屋や事務所を市町村と国の補助で解体する期限となる。自宅が無くなってしまえば郷愁も次第に消えてしま

でなくなった。立ち入り許可をもらい、境内の皆さんにみ教えを伝えることはできるのか。原発事故が残したお寺をどのように護るのか、ここでお寺は存傷はあまりにも深い。



光善寺を裏側から撮影。震災前には住宅が建ち並んでいたが、長引く避難指示の影響で次々と取り壊され、更地が目立つように

双葉町では3月4